

会員の近況報告 2

会員名: 杉原 淳 出身: 原子力工学大学院 1970 年 (S45) 年修了
技術士(化学)、神奈川県技術士会所属



原子核工学大学院(出来た時の名称)が出来て、すぐの一期生で、院生は二人だけ。あとは京大の冶金学科から来られた助手と教授の 4 人だけであった。新しい機器の設置、立ち上げ、小さな焼結炉の自作、真空ポンプの故障は、自分で修理をするなど、今から思えば、良い経験であった。研究テーマは“高速増殖炉の核燃料物質”で、昨年、運転もせず廃炉になった。修士課程を出て就職すると云っても、関西では企業は無かった時代、博士課程へ進学を決めた。同僚の一人は東北の企業へ就職した。博士課程の 3 年目に大学紛争で原子力建屋が学生たちに封鎖され、家で学位論文を書いた。封鎖される 1969 年の夏休み前に、神奈川県の設定直後の原子燃料製造会社からリクルートに来られた企業の部長さんと教授と会い、ここに就職することが決まった。1970 年 3 月の卒業式もなかったので、学位授与式は、翌年の 1971 年であった。1970 年に神奈川県・横須賀市へ転居。この企業でも 1 期生で、会社の立ち上げを経験した。設備は GE 社(米・ノースカロライナ州)からの払い下げが主で、その設置等の指導を受けてくると云う会社の要請で翌年、初めての渡航をした。GE もまだ、設備の立ち上げ直後で、その試運転を当初から担当させられ、下手な英語で対応していた。一年半が過ぎ、帰国。横須賀で原子燃料製造プラントの立ち上げに携わった。当時は原子力産業が隆盛で、原発があちこちに設置されていた頃である。1978 年に、二度目の渡米。今度は日本の企業、電力会社等から GE へ来る人達のリエゾンという仕事の内容。翌年の 3 月 28 日に歴史的事故が発生。ペンシルベニア州にあるスリーマイル島における原子力発電所の事故(TMI 事故)を体験した。

この後、原子力を止めようと決心して、秋に帰国し、工場増設を担当して数年後に、神奈川県かある大学から新学科(セラミックス材料工学科)創設に誘われ、転属した。ここでも新学科創設の透過型顕微鏡等、先端的な器具の設置を担当し、電子材料の研究室を創設、主にクリーンエネルギー材料で、当時まだ世には出ていなかった「温度差発電のセラミックスの研究」を開始。熱電学会設立の委員長を拝命し、JIS 作成にも携わった。しかし、当時はまだ日本では原子力優先の国の政策で、新エネルギーへの関心は無かった。21 年間の大学生生活を無事終えて、2011 年に退職。その年に、福島での原発事故が発生。原子力を離れて 23 年。誰から頼まれたのでもなく、一人で福島県・浪江町へ行き、少し前から開発した「サイン水」で、セシウムを安定な元素バリウムに変換させることに成功。当時、政府、企業へも説明に行ったが、無視された。それ以後、今もサイン水の量子力学的解明と生体へのさまざまな効果をライフワークとして楽しんでいる。

〒236-0046 横浜市金沢区釜利谷西 1 丁目 20-24 Tel & Fax. 045-785-4166

mobile:090-9346-7746, E-mail: natsuyama41@gmail.com, URL: pmbwaterss41.com

杉原淳